

1

1 I イ  
II 謙  
と  
2 I エ  
II イ  
III エ

3 ブラック  
4 エ

5 (記述題)  
6 自者  
7 人間の成長

8 エ  
9 A エ  
B ア  
C イ

10 a 急速  
b 周波数  
c 色調

2

1 a 次元  
b 帰社  
c 意外

2 A くさかんむり  
B さんずい(へん)

C れんが(れっか)  
3 I ウ  
II エ  
III イ

4 ウ  
5 ア  
6 強盗  
7 (記述題)

8 エ  
9 ウ  
10 エ  
11 後悔

1

無知であると自覚することで、学ぶべき  
ことがたくさんあると気づき、経営に必  
須な新しい知識や感覚を学べるから。

(同意可)

2

7  
渡瀬さんは自分自身の弱さを許  
せないので、娘を許せなくて会  
つてくれないと思っ  
う誤解。

(同意可)

配点	
1 9・10 2 1・2	各2点×12=24点
1 5 2 7	各6点×2=12点
その他	各4点×16=64点
100点	

1

1 I 「知らない世界」のほうが「大きな割合」であると言える根拠を選ぶ。この宇宙の95%が「未知のもの」というなら、知らないことのほうが間違いなく多いと言える。筆者は自分の言っていることが勝手な言い分ではないことを示すためにこの例を挙げているのである。

II 「結局何が言いたいのですか」という問いなので、結論を問うている。「知らないこと」がほとんどなのだから、「謙虚になること」が大事だと言いたいのである。

2 「同じものをくり返し使ってもかまいません」とあることに注意すること。IとIIIはどちらも直前に書いてあること、具体例が直後に書かれている。IIは「最近まで思われてきました」↓ところが↓「最新の研究では」というつながりになる。

3 「ブラックボックス」とは、元々は「機能は知られているが、内部構造が不明の装置」のこと。ここでは比喩的に「よくわからないこと」の意味で使われている。

4 「知らないこと」を知りたいと思って「未知なるものを求める」心は「好奇心」である。アは「自分の人格を大切にすることを祈る気持ち」「プライド」。イは「恥ずかしく感じる気持ち」。ウは「自分の感情・欲望・邪念などにうちかつ心」。

5 直後の二文をまとめればよい。直後の一文だけだと経営の話にならない。また二文目だけをほとんどそのまま書くと、「そんな自覚」がどんな自覚を指すのかわからないので、指示内容を明らかにしておく必要がある。

6 直前の文の内容を指している。指定字数どおりに、また「くだという自覚。」につながるようにぬき出すことに気をつける。

7 直接的には「人間の成長していく上で、もっとも大切なことです」という内容である。この内容を空らんが合うように裏返した表現で答える。

8 アは「直近」ではなく2003年から見た3年間であるし、「同等」もおかしい。イはそういう気持ちになるだけであって、実際にはほとんどのことを知らないという話であった。ウは「すべての生き物よりもはるかに」というのが言い過ぎである。

9 Aは「ぬ」に置き換えられる「ない」。「ない」の見分けはまず「ぬ」に置き換えてみるのが基本である。ただし、エは「勉強しぬ」ではなく、「勉強せぬ」というように、直前の一字も変える必要がある。「くしない」という形には気をつけよう。Bは後にある名詞を修飾するための「の」。イは「が」に置き換えられる。ウは連体詞「この」の一部。エは体言の代用。「こと」などに置き換えられる。Cの「れる」「られる」は四つの意味をおさえておこう。今回はアが「尊敬」、イが「可能」、ウが「受け身」、エが「自発」である。

10 a 「急速」の「急」の真ん中の「ヨ」のよこぼうを飛び出さないようにしよう。b は交流電波や音波など、周期的変化をする現象が一秒間に何回くり返されるかを示す数。c は色の濃淡・明暗・強弱などのぐあい。

2

1 a・b・c いずれも同音異義語に注意しよう。特にbは「貴社」「記者」「汽車」など、多くの同音異義語がある。aは「次元が違う」という表現でよく使われ、この場合は「物事を考えたり行ったりするときの立場やその程度」を表す。cは分かっているにもかかわらず「以外」のほうを書いてしまうというミスも起きるので気をつけよう。

2 それぞれできあがる熟語は、A「薬草」、B「法治」、C「黒点」である。このような漢字パズルではある程度出題されるものも決まっているので、経験を重ねることですぐわかるようになることもある。

3 Iは直後の「顔を緩めた」に注目する。話をしっかり最後まで読めばわかるが、一行目の「例のこと」というのは、「渡瀬さんが過去に娘にピアノを買ってやりたくて強盗をした」という話であり、それを聞いた一輝が渡瀬さんの助手をいやがるかと思っていたら、そうではなかったので安心したのである。IIは「愛美の姿を思い出して」あることに気づいたことを示す「あつと」が入る。IIIは直後の「口元を緩めた」に注目する。この場面は父の顔を思い出したところなので、安心ではない。

4 次の日、一輝は愛美に「渡瀬さんの娘さんなんです」と話しかけている。「両手を握りしめた」のはあることを決心したことを示す表現である。ただし、エほど強くない。何も答えてくれない愛美の態度によって「諦めた一輝」とある。

5 このあと一輝に「父に、伝えておいてもらえますか」と言っていることから、どうしても父のことが心に引っかかっているのだということがわかる。言うかどうかを悩んでいるのではないのでイは違う。ウは話の本筋と全く違う。エのように思っているならば、この後の愛美の発言はまた違った内容になっているはずである。

6 問3の解説でもふれたが、渡瀬さんがした「取り返しつかない失敗」が強盗である。一輝がはっきりと「愛美さん、自分のせいで渡瀬さんが強盗をしたって思ってるみたいですよ」と発言している。

7 誤解の内容を説明するときは「(真実)の(思い込み)」とされている」とすると説明しやすい。直前で愛美が話している「父は私のことを許してくれない」が愛美が思い込んでいることで、真実は——線④の直後で一輝が言っている「渡瀬さんが許さないのは自分自身の弱さ」である。

8 直前で一輝が愛美の誤解を渡瀬さんに伝えたことよって渡瀬さんが愛美のもとに走って行ったのだから、誤解を解かねばならないと思っただけは明白である。しかし、もともと「会いたい」という気持ちはあったのだから、アはその部分が正しく書かれていない。

9 直前の「一瞬の間」が「社長が事情を察した」ということを表していることに気づいてほしい。再会は社長の望みでもあった。愛美が一輝の恋心に気づいている描写はないのでアは誤り。叱られるかどうかの認識も不明なのでイもおかしい。たずねたことだけに對する感謝でもないだろうからウも違う。

11 直前に「親父の口癖」とあり、本文中盤に『後悔しないように』が口癖の父とあった。自分が嫌いだった父の口癖が自分を動かす、渡瀬さんと愛美の再会を手助けすることになった。この口癖に対する印象が変化したのである。以上